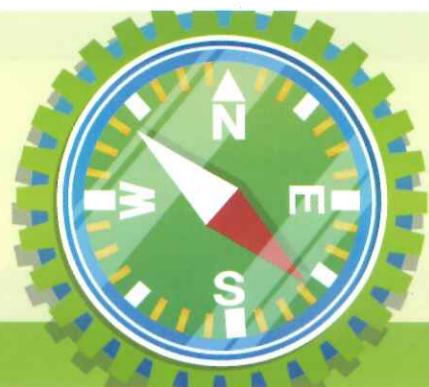


COMPASS 2022 March

学生支援事業通信 コンパス



学校法人
産業医科大学

〒807-8555
北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
TEL/093-603-1611(代表)

令和2年4月から、学生支援事業「新しい学生支援+α」がスタートしています。令和5年3月まで3年間の予定です。本事業は、大学の講義室や病院実習で修得する医学に関する知識や技術とは違った能力を学生に涵養する取り組みです。「仕事力+α」「人間力+α」「発信力+α」の3本柱から構成されています。社会に出たときに医師として活躍するのに役立つ基礎力です。人としての、医師としての真の実力と言っても過言ではないかもしれません。

社会人になる前に、立場の異なる多くの人達と交流することはとても大事です。人の多様性を理解し、許容する寛容さを身につけなければなりません。本事業が、コミュニケーション能力を備え、他人を思いやることのできる情緒豊かな人になると、主体的に行動し、情報を収集・分析し、問題点や自分の考えを相手に的確に伝える能力を磨くことに繋がるものと期待しています。

コロナ感染拡大の影響で、当初予定していたプログラムの一部が実施できなかつたことは残念でした。しかし、学生は、少人数のグループで産業医経験教員との懇談会を体験であつたとの感想を学生から多数いただいております。本事業に対するご理解とご支援を何卒よろしくお願ひいたします。



医学部長 酒井 昭典

真に実力のある
医師になるために

これは、卒業後の多様なキャリアパスを見える化し、学生や若手医師のライフプランの作成を支援し、意図せぬ就学資金返還事態（義務を果たそうと計画していたのにいつの間にか間違つて就学資金返還を求められることになった）が起こらないように卒業生と大学（担当事務部門と所属教室）が交流を続けるというものです。これまでも産業医を経由して専属産業医はもちろん臨床専門医・研究医・開業医・行政機関医師・健診機関医師等、あらゆる医師の仕事に従事できた訳ですが、具体的に「いつ何ができるのか？」見える化しました。もちろん、今後もあらゆる医師の仕事に従事できます。「新しい学生支援+α」や「キャリア形成プログラム」を通して、皆さんのが大きく成長し、自己実現されるよう強く願っています。



事業代表 学長 尾辻 豊

ご挨拶

学生支援プログラムは、文部科学省から選定された「大学と企業の連携で育成する統合学生支援」プログラム（平成20年～23年度）に始まり、優れた「将来の産業医」養成のため、継続的にプログラムの見直しを図りながら実施してきました。平成29年度～令和元年度は、「新しい学生支援+3つの+（プラス）プラン」を実施し、令和2年度からは、「新しい学生支援+α」が始まりました。

今まで実施してきた3つの+（プラス）プランの継続性を配慮し、更なる充実を図りました。

令和2年度より

学生支援事業 「新しい学生支援+α」 がスタートしました。

I 仕事力+α

- ◆どのような人々（労働者）がどのような環境で仕事をしているのか、現場を知る（現場力）
- ◆労働者の健康管理を行う上で今何が課題となっているのか、課題を明らかにする力を養う（課題探索力）
- ◆社会人として求められるものを身につける（社会人基礎力）

3つの+αプラン I 仕事力+α

- どのような人々（労働者）がどのような環境で仕事をしているのか、現場を知る（現場力）
 - △ 一日産業医密着体験、産業医オフィス訪問
- 労働者の健康管理を行う上で今何が課題となっているのか、課題を明らかにする力を養う（課題探索力）
 - △ 病院医・産業医経験教員との会話
- 社会人として求められるものを身につける（社会人基礎力）
 - △ マナー講座の実施
 - △ ラーニングの活用
 - △ 学生によるカリ・シミュレーション・ラボ活用術

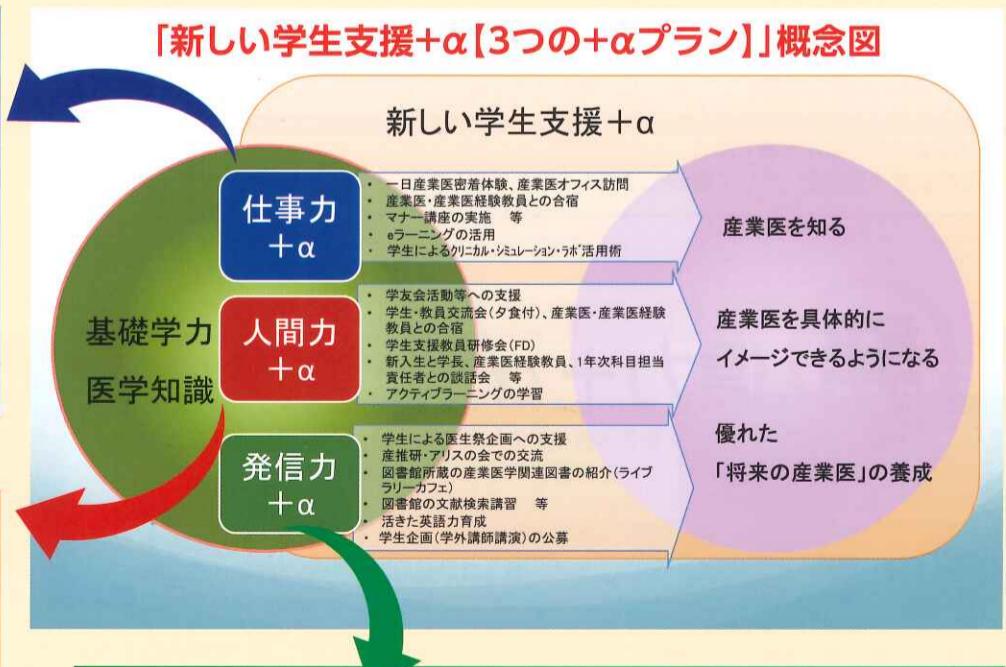
II 人間力+α

- ◆将来、チームで働くためのコミュニケーション能力を身につける（コミュニケーション力）
- ◆学生としての健全な生活習慣を身につける（持続力）
- ◆メンタルヘルス対策として学生支援体制を強化する（学生支援力）

3つの+αプラン II 人間力+α

- 将来、チームで働くためのコミュニケーション能力を身につける（コミュニケーション力）
 - △ 学生・教員交歓会（夕食会）、産業医・産業医経験教員との会話、新入生と学長、産業医経験教員、4年次科目担当責任者との談話会
- 学生としての健全な生活習慣を身につける（持続力）
 - △ 学生支援委員会（IG）、教員・保護者意見会
 - △ アクティブラーニングの実習

「新しい学生支援+α【3つの+αプラン】」概念図



III 発信力+α

- ◆何事にも当事者意識を持ち、主体的な行動ができる（行動力）
- ◆対外的な場で情報や人との繋がりを得ることができる（対人関係力）
- ◆自分の考えを適切に相手に伝える力を磨く（自己表現力）
- ◆情報を収集する力を養う（情報収集力）

3つの+αプラン III 発信力+α

- 何事にも当事者意識を持ち、主体的な行動ができる（行動力）
 - △ 学生による学生会への支援
- 対外的な場で情報や人との繋がりを得ることができる（対人関係力）
 - △ 産業医・アリスの会での交流
- 自分の考え方を適切に相手に伝える力を磨く（自己表現力）
 - △ 産業医科大学での発表
- 情報を収集する力を養う（情報収集力）
 - △ 外出回数・出席回数の在宅医経験医連絡会の紹介（ライブリーダー会議）
 - △ 国際会議の文献検索講習
 - △ 活きた英語力育成
 - △ 学生企画（学外講師講演）の公募

I 仕事力+α

学生によるクリニカル・シミュレーション・ラボ活用術

場所／大学1号館8階 医学教育改革推進センター

日時

令和4年1月21日(金) 13:40~14:40(静脈採血)
 令和4年2月4日(金) 13:40~14:40(静脈路確保)
 令和4年2月18日(金) 13:40~14:40(気管内挿管)

出席者

1年次生 1名、2年次生 15名 17名
 1年次生 4名、2年次生 9名 13名
 1年次生 4名、2年次生 9名 13名

1 月21日(金) 静脈採血、2月4日(金) 静脈路確保、2月18日(金) 気管内挿管と3回に分けて、医学教育改革センター浦野先生及び医学教育担当教員山本先生にご指導していただきました。

臨床実習用モデルの人形を相手に、熱心に何度も練習をしていました。

学生にとって、大変有意義な講座となり、卒業後も今回の経験が生かされることだと思います。

参加した学生の感想

- 低学年のうちになかなか体験する機会もないで今回参加してよかったです。今後の授業で出てきたときにイメージがつかめて、役立ちそうだと思った。少人数だったので、分からぬことを先生にすぐ聞けることもよかったです。
- 実際の実習学年の前駆けて体験ができたので、今後の学習へのモチベーションに繋がった。



日時／令和3年7月21日(水) 14:50~15:50
 場所／ラマツイーニホール 大ホール
 出席者／1年次生 101名

7 月21日(水)に医学部新入生を対象にマナー講座を開催しました。

講師にオフィス荒武 代表 荒武勢津子先生をお招きし、感染対策を取りながら身だしなみや言葉遣い、お辞儀の仕方等のビジネスマナーを、実践を交えながらご指導していただきました。

昨年度はオンラインでの実施でしたが、今年度は対面での実施となり、大変有意義な講座となりました。



マナー講座

産業医オフィス訪問

11 月30日(火)に、卒業生が産業医として勤務している企業のオフィスを見学する「産業医オフィス訪問」を実施しました。

今年度は、久留米市のダイハツグループ九州開発センターを訪問しました。

産業医の業務や工場見学をし、産業医としての働き方がイメージできる貴重な体験となりました。



日程	訪問先	出席者
令和3年11月30日(火)	ダイハツグループ九州開発センター (福岡県久留米市)	1年次生 7名、2年次生 4名 11名

参加した学生の感想

- 印象に残ったものの一つに、報告をしやすいように日頃から職員さんと信頼関係を築いていると仰っていて、それは医療の現場にもつながることだとと思いました。
- 見学を通して、どのように産業医が業務に関わっているのか、社員がどんな場面で産業医を頼るのかなど、自分たちが必要とされる場面を産業医目線ではなく、一労働者の観点から考えることで、産業医の必要性をより深く実感できたように思います。
- 一番印象に残っているものは、安全道場であった。しっかりと安全道場があってこそ、働く人の安全、健康状態をキープすることができるのだ強く感じることが出来た。
- 安全な職場環境づくりのための着眼点を学習することができた。自分が産業医となった際の参考としたい。
- 産業医と現場で働く人が壁なく話しており、人間関係や信頼の構築も大切だと思いました。
- 産業医は、社員の方々と協力して目標を達成する仲間のような関係を築いていくことが臨床はない魅力だと感じました。実際に先生も、社員の方が苦労しながら無事に退職を迎える瞬間にやりがいを感じられる、とおっしゃっていたのがすごく印象的です。

II 人間力+α

第9回ブロック別医学部教員・保護者懇談会

日時／令和3年10月30日(土) 13:00~16:30

場所／ラマツイーニホール 大ホール

参加者／保護者 177名、学生 22名、web参加 86件

10 月30日(土)に、第9回ブロック別医学部教員・保護者懇談会を対面及びWEBを利用したハイブリット形式で開催し、199名(保護者177名・学生22名)及びWEB86件の方にご参加いただきました。

卒業生産業医の渡邊 聖二先生(一般財団法人西



参加した保護者の感想

- 貴学が学生教育についてきめ細かい対応をなされていることを知り安心いたしました。卒後支援も手厚く、同窓生の方々のつながりもあり、素晴らしいと思いました。
- 産業医になるまでのサポートや、大学6年間、その後のこと等知る機会となりました。子ども本人の学ぶ意欲の持続をキャリア形成について親としても考え方されました。
- 卒業生のお話がとても具体的で子どもの将来がイメージできました。
- コロナ禍における、学生の悩みなど、知ることができて、あらためて家族とのコミュニケーションの大切さや、今後の勉強に対する、姿勢など学ぶことが出来ました。
- 卒後進路に関してのお話の中で義務年数等の例としての表がとてもわかりやすかったです。
- 教育の質の改善や、いろいろな学習支援、その他のサポートがあり、ご尽力頂いておりまして感謝しております。とてもわかりやすく、理解させて頂きました。
- 学生の現状、教育カリキュラム等、大変わかりやすいお話を参考になりました。カリキュラムや進級が他大学に比べて大変だということもあらためて理解しました。
- 学生たちの状況及び先生方の指導についてお聞きし、この大学に通わせてよかったと安心いたしました。また、現地参加させていただき、先生方の雰囲気も伝わってまいりました。

・開会

- 学長挨拶 尾辻 豊 学長
- 医学部長挨拶 酒井 昭典 医学部長
- 学生支援の現状 佐藤 寛晃 学生部長
- 医学教育の現状 斎藤 光正 教務部長
- 学生相談の現状と問題 江口 尚 学生相談室相談員

プログラム

- 卒業生講演① 渡邊 聖二 産業医
- 卒業生講演② 吉川 里江 産業医
- 卒後進路について 中村 早人 進路指導副部長
一瀬 豊日 進路指導副部長
- 質疑
- 閉会



医学部1年次生と教員、産業医経験教員との談話会

日 時／令和3年11月22日～12月9日(全11回) 12:50～13:20
場 所／大学本館1号館1401会議室、ラマツィーニホール第1会議室

参加者／1年次生 105名

11 月22日(月)～12月9日(木)の期間に11回に分けて「医学部1年次生と教員、産業医経験教員との談話会」を実施しました。

産業医経験のある先生方から産業医の仕事についての貴重なお話と、1年次生からの質問にも丁寧にお答えいただき、大変参考になったと思います。

ご協力いただいた先生方、どうもありがとうございました。



参加した学生の感想

- ・産業医の業務に対するイメージがより一層深まり、理解することができた。
- ・産業医のオフィス訪問などに行ってみたいと思った。
- ・今後の勉強のモチベーションの向上にもつながった。
- ・産業医と臨床医の特徴や違いがよく分かった。

- ・少数だったので、話しやすく、質問に答えていただけてよかったです。
- ・周囲の同期生の進路に対する考えを知る貴重な機会となった。
- ・産業医という職業の魅力に気付けた気がします。
- ・普段の授業とはちがって、先生との距離が近い中でお話をることができて非常に良かったです。

	日 程	1年次生	参加教員
第1回	11月22日	9名	1年次生学年担当教員 門野 敏彦 先生
第2回	11月24日	10名	医学教育改革推進センター長 浦野 元 先生
第3回	11月24日	10名	学生部長 佐藤 寛晃 先生
第4回	11月26日	10名	学 長 尾辻 豊 先生
第5回	11月29日	10名	進路指導部長 佐伯 寛 先生
第6回	12月 3 日	10名	副学長 堀江 正知 先生
第7回	12月 3 日	9名	医学部長 酒井 昭典 先生
第8回	12月 8 日	9名	副学長 上田 陽一 先生
第9回	12月 8 日	8名	前学生部長 森本 景之 先生
第10回	12月 9 日	10名	教務部長 齋藤 光正 先生
第11回	12月 9 日	10名	保健センター長 川波 祥子 先生

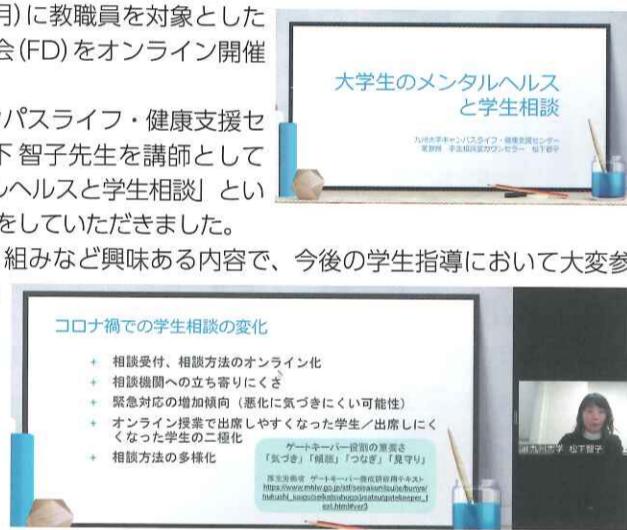
学生支援教員研修会 (FD)

日 時／令和4年2月21日(月)17:30～18:30 オンライン開催
出席者／教職員 73名

2 月21日(月)に教職員を対象とした教員研修会(FD)をオンライン開催しました。

九州大学キャンパスライフ・健康支援センター准教授 松下智子先生を講師として「大学生のメンタルヘルスと学生相談」というテーマでご講演をしていただきました。

九州大学の取り組みなど興味ある内容で、今後の学生指導において大変参考となる講演でした。



参加した教職員の感想

- ・今回、お話をあったことを気に留めているだけでも学生さんへの対応の仕方も違ってくると思うので、それを生かしていこうと思いました。
- ・具体的な対応の仕方を提示して頂けて、わかりやすかったです。
- ・注意すべきポイントが良くわかりました。
- ・早い段階での対処が大事であることを再認識しました。
- ・学生相談室や支援室について理解を深めようと思いました。

日 時／令和4年1月12日(水)13:40～15:30

場 所／大学本館 2号館 3階 2305講義室
参加者／1年次生 99名

1 月12日(水)に、北九州市人権推進センター 小嶋謙之先生をお招きし、アクティブラーニングの実践を開催しました。

講演のテーマは、「LGBTを知る 多様性を楽しむ社会を目指して」についてご講演いただきました。性別に対する意識改革が求められている現在、大変貴重なお話をしていただきました。



参加した学生の感想

- ・LGBTの人にカミングアウトされた時の対処法やLGBTの人がカミングアウトしやすい環境を作っていく人が大切だということなどLGBTについてより深く理解することが出来た。
- ・講演を受けるまで誤った知識を持っていたりしていたので、LGBTの方を傷つけてしまうまえに知れてよかったです。
- ・LGBTは自分の意志で変えられないし、医学的異常でもないと聞き、今まで私が思っていたLGBTに対する考え方がありました。正直LGBTについて知らないことばかりだったと思いました。価値観は人それぞれだし、それぞれそのままで尊重されるべきという考え方には感動しました。

- ・「皆が楽しく生きる」というのが本来の目的であるはずなのに「皆が同じである」ということがあつかも目的のようになっているというお話をとても印象的だった。
- ・社会全体が取り組むべき課題を個人として見つめなおすよい機会になりました。説得力をもつデータを活用し、より多くの人に知ってもらうことが重要だと感じました。
- ・LGBTに配慮する、認めるといった言葉があまり好きではなかったので、楽しむという言葉がとてもよく感じました。
- ・自分らしく生きることを大切にしたいと今回の講演を聞いて思いました。LGBTに限らず多様性を大切にし、選択肢を増やすことがこの世をさらに豊かになることがわかりました。

III 発信力+α

2nd INTERNATIONAL WEBINAR
in Collaboration between Japanese Medical School International Collaborative Assembly
and Universitas Muhammadiyah Samarinda
Hosted by Faculty of Medicine, Universitas Muhammadiyah Samarinda

**"CURRENT TREATMENT FOR DIABETES :
WHAT MEDICAL STUDENTS
AND YOUNG DOCTORS NEED TO LEARN"**

SATURDAY, JANUARY 8TH 2022
01:00-04:00 PM INDONESIAN TIME / 03:00-06:00 PM JAPAN TIME

OUR SPEAKERS:

- Dr. Ibu Novita Nurhidayati Mulyawati, Sp.PD, M.Sc, FINASIM
FACULTY OF INTERNAL MEDICINE
UNIVERSITY OF MUHAMMADIYAH SAMARINDA
"Present Status of Diabetes in Indonesia"
- Eijiro Yamada, MD, PhD, Associate Professor
DIVISION OF ENDOCRINOLOGY AND METABOLISM
DEPARTMENT OF INTERNAL MEDICINE
GUNMA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE
"Diagnosis and Latest Treatment
For Diabetes"
- Kelichiro Matsuba, MD, PhD, Associate Professor
DEPARTMENT OF INTERNAL MEDICINE
UNIVERSITY OF MUHAMMADIYAH SAMARINDA
"Diagnosis and Management of
Diabetic Hepatopathy"
- Yoshimasa Mizutaka, MD, PhD, Associate Professor
DEPARTMENT OF INTERNAL MEDICINE
UNIVERSITY OF MUHAMMADIYAH SAMARINDA
"Present Situation of Diabetic Retinopathy
in Japan"
- Kelechiro Matsuba, MD, PhD, Associate Professor
DEPARTMENT OF INTERNAL MEDICINE
UNIVERSITY OF MUHAMMADIYAH SAMARINDA
"Diagnosis and Management of
Diabetic Hepatopathy"
- Prof. Toshiaki Kojima, MD, PhD
COLLABORATIVE ASSEMBLY
"Diabetes Mellitus"
- dr. Rechmadina Suci Bestari, M.Sc
UNIVERSITAS MUHAMMADIYAH SAMARINDA
Contact Person:
dr. Hiliary Lestari, M.H.
(+62 821 5452 0027)
+62 271 716844
<https://tinyurl.com/2zdtvhsn>

REGISTER NOW

Official FK UMS

(全国医学部国際交流協議会)インドネシアとの国際Webセミナー

日 時／令和4年1月8日(土)15:00～18:00 オンライン参加 参加者／1年次生 2名

1 月8日(土)に、MOUを締結しているインドネシアの12医科大学からなる Association of Muhammadiyah's Medical and Health Education と全国医学部国際交流協議会との共催で、現地の医学部生(若手医師も含む)を対象とするZoomを用いた国際ウェブセミナーが開催され、学生支援プログラムの一環として医学部1年次生に周知し、2名が参加しました。また、他の学年にも参加を呼び掛けましたので、3年次生1名、5年次生1名、6年次生1名が参加しました。

参加した学生の感想

- ・糖尿病についてのセミナーで1年である私にはすべて完璧に理解したということはできませんが、授業で学んだので興味深いと思いました。今回、英語でのセミナーに参加するのは初めてでしたが、いい経験になったのでまた参加したいと思いました。
- ・インドネシアの学生をはじめ、質疑応答がすべて流暢な英語で行われ、自分なりの見解をきっちり述べられていました。私はまだ医学的知識が圧倒的に不足する他、コミュニケーションツールとしての英語力がまだ身についていないことを再認識させられました。英語、第二外国語として選択したドイツ語をもっと話せるようにしてコミュニケーションをとれるようになってまた参加したいと思います。

日 時／令和3年10月9日(土)13:00～17:30
場 所／ラマツィーニホール 大ホール 参加者／1年次生 84名

1 シンポジウム

テーマ「災害と産業保健～産業保健スタッフや産業医科大学ができるることは何か～」

シンポジスト：

- 阿南 伴美先生 (セントラル産業医事務所)
- 井手 宏先生 (三井化学 岩国大竹工場 健康管理室 西日本統括)
- 立石 清一郎先生 (産業医科大学 両立支援科学)

2 特別講演 (産業医学推進研究会九州地方会主催)

演題「健康支援に使えるナッジ」

演者：竹林 正樹先生 (青森県立保健大学 公衆衛生研究室 博士)

3 特別講演 (産業医科大学学会主催)

演題「安川電機におけるDXの取り組み」

演者：津田 純嗣先生 (安川電機 代表取締役 会長)

産業医学推進研究会九州地方会のテーマ：ナッジ
ナッジとは、「強制的ではなく、自発的に望ましい選択をするように促す」という仕掛けや促します。新型コロナウィルスの流行やワクチン接種などを進める中で、相手にいかに望ましい選択をするように促すかということの難しさを、皆様も痛感されているのではないでしょうか。ナッジこそ、私たちが学び身につけたい手法・アイデアではないかと思っています。

プログラム



第47回産業医学推進研究会九州地方会

10 月9日(土)に、産業医学推進研究会九州地方会様のご協力により、医学部1年次生が第47回産業医学推進研究会九州地方会に参加しました。今年度は産業医科大学学会と産業医学推進研究会九州地方会との共同開催となり、1年次生にとって初めての学会参加で、大変貴重な経験となりました。特に、今回のテーマであった「ナッジ」について印象に残った学生が多かったようです。



参加した学生の感想

- 災害関連の話は、日本は災害から逃げることはできない国であることもあり、特に勉強になりました。
- 産業医として何ができるのかマニュアル作りを勧めているというのを聞いて、まさに最前線を知ることができてとても貴重な体験ができたと感じました。
- これから大学生活におけるプレゼンテーションなどの場面において生かすことのできる話を聞くことができました。
- 医学初心者でも理解したり考えたりでき
- る内容もあり、最後まで集中して楽しめました。
- 産業医とは人々に幅広く影響を及ぼすことが出来る職業であることに改めて気付き、人間の思考回路や行動を「ナッジ」という新しい観点から追及していくことや、このことから出た様々な結果や事実、法則も出てきたことに興味を抱いた。
- 職場の安全整備や災害への対処の声を聞くことができる機会だったと思う。
- 働くときは、先輩方とのネットワークは大事だとわかりました。そのため、意識的に人とかかわっていきたいです。

第33回産業医学推進研究会 全国大会

11 月27日(土)にクロス・エープル府中よりWeb配信された第33回産業医学推進研究会全国大会に、医学部1年次生全員がオンライン参加しました。1年次生にとっては、難しい話もあったようだが、先輩方の活動を知る貴重な機会となりました。

参加した学生の感想

一番に感じたことは産業医科大学のコミュニティの強さです。卒業してからもこのような交流を行えるというのはこの大学の強さだと改めて感じ、私も勉強を積んで、早く、意見を出して参加できる側になりたいと思いました。また、今回の内容はまだ私には難しく感じるものもあったのですが、先生方が生き生きと発表、議論されている姿を見て、学生の間だけでなく、ある職種に就いてからも熱心に学び続ける姿はかっこいいなと感じました。今回感じたことや学んだことをこれからの学生生活に生かしたいです。

産業医や産業医学を学ぶことができる良い機会でした。表彰式を視聴して、将来産業医として活躍していくモチベーションがさらに高くなりました。

難しい内容もありましたが、私たちにも分かりやすく説明してくださいましたところもあってありがとうございました。早いうちから学会に参加できることは、メリットがあると思いました。この先、今回のような学会にも積極的に参加していきたいと思いました。

一年生のうちから、産業医学推進研究会という産業医としての最先端に行く発表会に参加できる機会を与えてもらえてよかったです。産業医として働く先生からの生の声はもちろん、看護や環境マネジメントの方からの声を聴き、医療現場をよりリアルに感じることができました。企業、臨床医も含めて、彼らとの連携が産業医としての仕事の意味が大きく変わってくることをより実感できました。後半のスケジュールも難しい内容ではあったが、様々な立場から見た産業医に関する鼎談も興味深かったです。私感ではありますが、多くの人と意思疎通を図る、情報交換をする、私たちのような学生が将来に目を向けるというような様々な点において非常に有意義であったと思いました。

今日は医学部以外の卒業生が卒業後どのように働いているのか知ることができ、よい機会だったと思う。また、産医の卒業生のネットワークがしっかりとおり、学年・学部の垣根を超えたつながりがあって将来的に心強いと感じた。午後からのディスカッションは難しく理解できない部分もあったが、働き方が変わりつつある現代社会における産業保健の課題といった現実問題を知るきっかけとなったり、先生方の議論を初めて見てディスカッションの面白さや先生方のすごさを痛感しました。

自らが産業医を目指すうえで、改めて詳細な内容を知ることができ、加えて産業医がいかに社会において必要不可欠な存在かを学ぶことができた。今後もこのような会に積極的に参加し、自らが目標する産業医像をより確かなものにしたい。

実際に産業医の方が何を考え、何に重点を置き仕事しているのかが理解できよかったです。実際の学会の雰囲気が分かり、有意義な時間だった。

休みの日にも関わらず、産業医学や産業保健の向上に向けて本気で話し合っている姿にとても感銘を受けました。産業医学を学生のうちから学ぶことができる環境にいられることに感謝してこれからも勉学に励んでいこうと思います。

医師だけでなく、看護師や衛生管理者、保健師などの医師以外の職業の人と一緒に働くことによって、医師の立場だけでは知ることのできない新しい発見があるということを学んだ。医師だけでなく他の職業の方とのつながりを持つことで医師として役に立つことを獲得できるのだと思ったので、将来のためにたくさんの人とつながりを持つことを意識して今後医学生としての時間を過ごしていきたいと思った。

産業医学をより深く知ることができた。日常ではなかなか産業医学についての情報を手に入れることが出来ないため、このような機会があることは非常に光榮なことだと思う。

学生支援事業

「新しい学生支援+α」で感じたこと

事業責任者 学生部長 佐藤 寛晃



学生支援プログラムは、事業所訪問や産業医との交流などを通じて1年生から産業医について詳しく知ることができる機会を設け、産業医がどのような医師なのかを具体的にイメージできるようになります。これを目的とし、将来、産業医として必要なスキルを身に着けることも目標に掲げております。

本プログラムでは学外者との接触機会が多く、新型コロナ感染症の影響により、昨年度・今年度と多くのプログラムを実施することができませんでした。今年度、学生が参加できた数少ないプログラムの中に「第47回産業医学推進研究会九州地方会」がありました。この中で、工場事故・自然災害現場において負傷者対応・二次被害防止等を

編集後記にかえて

産業医科大学医学部学生支援事業について

本学が平成20年から継続して実施している学生支援プログラムについて大学ホームページにおいて紹介しています。

『新しい学生支援+α【3つの+α】』について是非ご覧ください。

